

社会資本総合整備計画  
都市再生整備計画 事後評価シート  
国富地区

平成29年3月

宮崎県国富町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮崎県		市町村名	国富町		地区名	国富地区		面積	1,390ha			
交付期間	平成24年度～28年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	3,378.5(百万円)	国費率	0.294				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	太田原3号線、向高須志田線(森永工区)、大王線、向高須志田線(向高工区)、太田原原口線、宮本町線、町道側溝整備16線、中央コミュニティセンター(地域生活基盤施設、高次都市施設)、八幡河川公園、市街地広場(2箇所)、照明施設(県道宮崎須木線)										
		提案事業	中央コミュニティセンター(地域創造支援事業)、消防詰所、防火水槽(4基)、交通安全・防災に対する意識調査										
		事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業	基幹事業	(仮称)稲荷谷ノ口線、嵐田線、六日町八幡線				整備スケジュールの変更 別事業で実施することに変更				影響なし		
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	向高須志田線(西ノ前工区)、田尻平田線、町道側溝整備等9線、中央コミュニティセンター広場				利用者が多い路線において交通安全確保の観点から事業の追加 事業種別の見直しによる変更 事業区分を明確化したことによる事業の分割				影響なし		
		提案事業	なし										
	交付期間の変更	当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				-				
		変更	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	防災に関する満足度	-	2.8	H24	3.0	H28	-	3.6	○	あり なし	避難施設や市街地の防災施設整備等により、減災まちづくりの都市基盤が強化されたことが目標達成につながった。	平成29年10月頃
	指標2	安心安全に関する満足度	-	2.7	H24	3.0	H28	-	3.2	○	あり なし	利用実態に即した効率的な整備(通学路の歩道整備や生活道路の側溝設置等)が住民ニーズに合致していたと考えられる。	平成29年10月頃
	指標3	健康増進施設の利用者数	人/年	35,000	H24	37,000	H28	-	0	×	あり なし	中央コミュニティセンターについては、町民・利用者ニーズに沿った設計により、町民の期待度は非常に高いものの、広範囲で地盤改良が必要になったことや長期の天候不良による工事の遅れにより、目標値(利用者数)が計測できなかった。	平成29年12月頃
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	健康増進・コミュニティ拠点としての満足度	-	0	H24	/		-	1.3	/	/	町民・利用者や専門的な知識を有する委員で構成する委員会を中心とした検討・設計プロセスや、町民・利用者ニーズに合致した設計であることが、施設への期待度も含めて非常に高い満足度につながった。	-
	その他の数値指標2	本地区への定住意識の向上	-	0	H24	/		-	0.7	/	/	防災・安心安全・健康をテーマとした本計画の事業が、町民の居住に関するニーズと合致していたことが達成要因といえる。	平成29年10月頃
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央コミュニティセンターの利活用について、新たな取り組み・展開(ex.シニア世代の健康づくり・体力づくりを支援して将来的な財政負担の軽減を図る。企業がスポンサーとなった大会を開催し、より活発な大会の開催や新たなコミュニティの創出を図る。)が議論されるようになった。</li> <li>本計画の道路整備によって、整備予定の国富SIC(仮称)も含めた道路ネットワークが構築され地域産業を支える物流面での効果や、快適で安全な通勤・通学路の確保が町民の定住ニーズに寄与する効果が得られた。</li> </ul>												
5)実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	なし	実施状況				今後の対応方針等						
			都市再生整備計画に記載し、実施できた				-						
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-						
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-							
住民参加プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央コミュニティセンターの建設にあたって、町民・利用者や専門的な知識を有する委員からなる「建設検討委員会」を立ち上げ、施設の内容について同委員会を中心に検討を進めた。</li> <li>中央コミュニティセンターについて、町民が親しみやすく覚えやすい愛称を募集した。</li> </ul>		都市再生整備計画に記載し、実施できた				●						
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
持続的なまちづくり体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>国富町商工会による整備施設を活用した取り組み</li> </ul>		都市再生整備計画に記載し、実施できた				●						
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

## 様式2-2 地区の概要

### 国富地区(宮崎県国富町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標 安心・安全で住みよい元気なまちづくり  目標1: 防災機能の整備充実や避難地の確保により、災害に強い安全な地域づくりをめざす。 目標2: 道路改良・歩行空間整備等を行い、通勤・通学を始め歩行者等に安全で快適な居住空間を形成する。 目標3: 地域の活性化、住民の健康づくり、生活環境整備の推進を通して住みよい元気なまちづくりをめざす。	防災に関する満足度	単位: - 2.8 H24	3.0 H28	3.6 H28
	安心安全に関する満足度	単位: - 2.7 H24	3.0 H28	3.2 H28
	健康増進施設の利用者数	単位: 人/年 35,000 H24	37,000 H28	0 H28
	健康増進・コミュニティ拠点としての満足度	単位: - 0 H24		1.3 H28
	本地区への定住意識の向上	単位: - 0 H24		0.7 H28

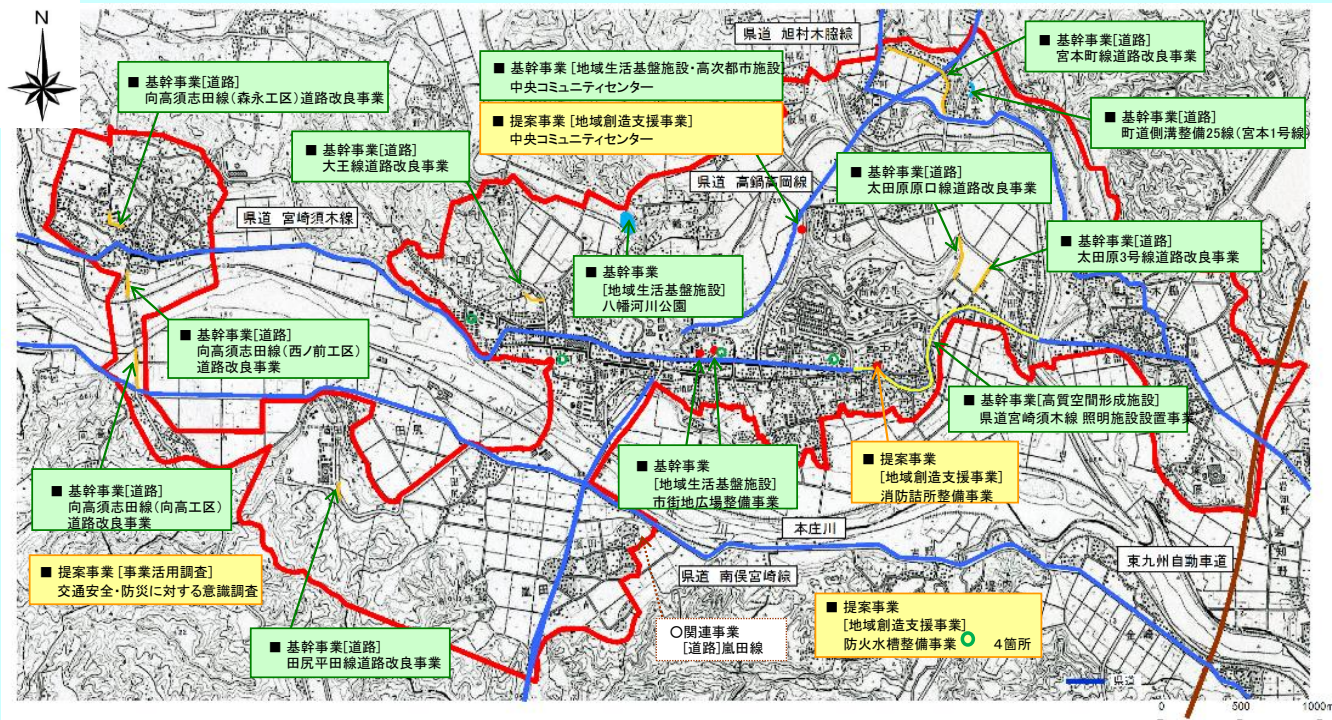
・通学路の歩道整備(向高須志田線)



・消防詰所整備事業



・照明施設設置事業



・市街地広場整備事業



・八幡河川公園



**まちの課題の変化**

- 雇用者・利用者増によって渋滞が問題となっていた町道(主要県道へのアクセス道路)の渋滞緩和整備が図られた。また、本事業によって、道路の渋滞解消や通学路の安全性は高まり、整備予定の国富SIC(仮称)を含めた道路のネットワークも構築された。
- 今後は、町の産業活性化に資する道路ネットワークを更に活用していくためにも、国富SIC(仮称)を活かしたまちづくりの展開の重要性が高いといえる。
- 被災時の避難施設および公的な対応の中枢機能を担う中央コミュニティセンターの整備や消防詰所・防火水槽の整備によって、防災・減災に資するまちの基盤整備が進められた。これらによって、町民の防災に関する満足度が向上した。
- 通学路の歩道整備に加えて、地域住民の視点に立ったきめ細かい整備(側溝整備)等を実施し、町民の安心安全に関する満足度の向上が図られた。
- 健康増進・地域コミュニティの活性化・被災時の拠点施設として、町民の期待度・満足度が非常に高い中央コミュニティセンターの整備を推進できた。この施設により、体力づくりや心の健康(コミュニティ活性化による効果)の観点から、町民の健康確保が図られることが期待できる。
- 一方、更にきめ細かい町民の健康増進(住みよい元気なまちづくり)の観点では、保健・医療・福祉についても、より利用者の利便性を高める取り組みを進める必要性があり、課題として残っているといる。
- また、『元気なまちづくり』の観点では、本事業で実施したまちなかの広場(イベントスペース)等も活かしながら、町の産業・観光業を更に活性化させていくことも重要である。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- 整備した防災・減災に資する「まちの基盤」の効率的な維持管理を図るとともに、防災に関する町民の自主的な活動を支援する。
- 町内道路について効率的な維持管理・利活用を図る。
- 町民の満足度・期待度が非常に高い中央コミュニティセンターについて、積極的・効果的な利活用を図る。
- 本事業等で整備・構築した道路ネットワークと、整備予定の国富SIC(仮称)を活かしたまちづくりの展開を図る。
- 保健・医療・福祉分野における利用者の利便性を高める取り組みにより、更にきめ細かい視点での町民の健康増進を図る。
- 町の産業・観光業の更なる活性化に資する、新たな拠点づくりや取り組みを推進する。

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		目標3: 地域住民の健康づくり、生活環境整備の推進を通して住みよい元気なまちづくりをめざす。	目標3: 地域の活性化、住民の健康づくり、生活環境整備の推進を通して住みよい元気なまちづくりをめざす。	大目標『安心・安全で住みよい元気なまちづくり』の実現のためには、「地域の活性化」が重要であることから、市街地にイベント開催が可能な広場機能を追加するとともに、目標3に「地域の活性化」を追記する。
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(交付期間)		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(仮称)稲荷谷ノ口線	180.0	L=500m	-	-	用地取得等において地権者の一部が確定できないことに等より、整備スケジュールの変更	影響なし		
道路	嵐田線	12.0	L=130m	-	-	別事業で実施することに変更	影響なし		
道路	太田原3号線	45.0	L=340m	36.6	L=215m	事業実績費用の反映、および事業内容の見直しによる変更	影響なし		●
道路	向高須志田線(森永工区)	15.0	L=90m	14.2	L=80m	事業実績の費用の反映	影響なし	●	
道路	大王線	13.0	L=121m	9.9	L=121m	事業実績の費用の反映	影響なし	●	
道路	六日町八幡線	48.0	L=350m	-	-	別事業で実施することに変更	影響なし		
道路	向高須志田線(向高工区)	36.0	L=250m	57.0	L=259m	事業実績の費用の反映	影響なし	●	
道路	太田原原口線	49.5	L=270m	79.4	L=270m	事業内容の見直しによる変更	影響なし	●	
道路	宮本町線	33.0	L=130m	130.6	L=688m	事業内容の見直しによる変更	影響なし		●
道路	向高須志田線(西ノ前工区)	-	-	20.3	L=160m	通学路の交通安全確保の観点から整備工区を追加	影響なし	●	
道路	田尻平田線	-	-	14.9	L=98m	誘致企業の従業員等に対する交通安全確保の観点から事業を追加	影響なし	●	
道路	町道側溝整備等	274.0	L=510m(16線)	346.9	L=5,473m(25線)	事業種別(本事業・町単独事業)の見直しによる変更	影響なし		●
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	中央コミュニティセンター	128.0	A=3,000㎡	119.8	A=283.29㎡	設計精度を向上した費用の反映	影響なし		●
地域生活基盤施設	緑地(八幡河川公園)	1.0	A=500㎡	3.0	A=1,649㎡	設計精度の向上による整備区域・費用の反映	影響なし	●	

地域生活基盤施設	広場(市街地2か所)	147.0	A=1,575㎡	125.5	A=2,023㎡	事業実績の費用の反映	影響なし	●	
地域生活基盤施設	中央コミュニティセンター広場	-	-	236.2	A=15,110㎡	建物に附帯する駐車場・広場と同施設広場の事業区分を明確化したことによる事業の分割	影響なし		●
高質空間形成施設	照明施設(県道宮崎須木線)	7.0	L=1,700m	10.5	L=1,400m	事業内容の見直しによる変更	影響なし	●	
高次都市施設	中央コミュニティセンター	650.0	A=3,000㎡	583.7	A=1,380.71㎡	設計精度を向上した費用の反映	影響なし		●
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと





添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし	
指標1	防災に関する満足度	-	-	-	2.8	H24	3.0	H28	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み ●	3.6	事後評価	○		
指標2	安心安全に関する満足度	-	-	-	2.7	H24	3.0	H28	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み ●	3.2	事後評価	○		
指標3	健康増進施設の利用者数	人/年	-	-	35,000	H24	37,000	H28	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	
									事後評価	確定見込み ●	0	事後評価	×		
指標4									モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5									モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成28年度実施の「防災に関するアンケート調査」で目標値を上回ったことから、基準時点においても目標値に達すると判断した。	-
指標2	平成28年度実施の「安心安全に関するアンケート調査」で目標値を上回ったことから、基準時点においても目標値に達すると判断した。	-
指標3	中央コミュニティセンターの利用開始が平成29年度になる予定であることから、目標値に達しないと判断した。	-
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度						
その他の数値指標1	健康増進・コミュニティ拠点としての満足度	-	中央体育館の利用者を対象として、事業前後の「健康増進・コミュニティ拠点としての満足度」を5段階(-2点:満足度が低い、-1点:若干満足度が低い、0点:変化なし、1点:若干満足度が高い、2点:満足度が高い)で評価してもらいアンケート調査を実施し、回答された数値の平均値を評価値として推計。	-	-	0	H24	モニタリング	-	-	中央コミュニティセンターは、計画段階から町民・利用者が関わりながら事業を進めることに留意している。本指標は、利用者である町民にとって、本施設の計画・設計プロセスや施設の内容について満足が得られているかを、指標の「健康増進施設の利用者数」と併せて説明する。	指標3を補完して、健康増進・コミュニティ拠点としての満足度合を、より詳細に説明する。
								事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2	本地区への定住意識の向上	-	地区住民を対象として、「定住意識の観点での事業に対する評価」を5段階(-2点:定住意識向上につながる、-1点:どちらかといえば定住意識向上につながる、0点:どちらともいえない、1点:どちらかといえば定住意識向上につながらない、2点:定住意識向上につながらない)で評価してもらいアンケート調査を実施し、回答された数値の平均値を評価値として推計。	-	-	0	H24	モニタリング	-	-	本計画では、町民からの要望が高い防犯・防災対策や交通便利性・地域コミュニティの向上に資する事業を実施してきており、これらを通じて町民の定住意識が向上していることが期待できる。本指標は、本計画で実施してきた取り組みが定住意識の向上につながっているかを、各指標と併せて説明する。	指標1~3を補完して、定住意識の観点での事業効果を、より詳細に説明する。
								事後評価	確定 ●	見込み ●		
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 ●	見込み ●		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・中央コミュニティセンターの利活用について、新たな取り組み・展開(ex.シニア世代の健康づくり・体力づくりを支援して将来的な財政負担の軽減を図る。企業がスポンサーとなった大会を開催し、より活発な大会の開催や新たなコミュニティの創出を図る。)が議論されるようになった。
- ・本計画の道路整備によって、整備予定の国富SIC(仮称)も含めた道路ネットワークが構築され地域産業を支える物流面での効果や、快適で安全な通勤・通学路の確保が町民の定住ニーズに寄与する効果が得られた。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した	-	
	予定したが実施できなかった (理由 )	-	
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中央コミュニティセンターの建設にあたって、町民・利用者や専門的な知識を有する委員からなる「建設検討委員会(および建設検討準備委員会)」を立ち上げ、施設の内容について同委員会を中心に検討を進めた。	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計7回 【実施時期】平成24年12月～平成27年7月 【実施結果】町民・利用者ニーズに沿った施設の内容になり、町民からも高い評価を得られる結果につながった。	今回のような公共施設を計画する際は、今回のように町民や利用者等からの意見を反映するプロセスを設ける。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
中央コミュニティセンターについて、町民が親しみやすく覚えやすい愛称を募集した。	予定どおり実施した	● 【実施頻度】- 【実施時期】平成28年5月～平成28年6月 【実施結果】愛称募集により、同施設の認知度や愛着の向上につながったと考えられる(愛称について20件以上の募集があった)。	町民の愛着や利用頻度が、年々高まる施設になるような取り組みを実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
国富町商工会による整備施設を活用した取り組み	予定どおり実施した	● 町民主体の組織による、市街地広場を活用した賑わいづくりの実施(イベントの開催)	国富町商工会女性部、青年部	商工会などの積極的な活動を推進し、町は側方的な支援を図る。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内横断組織による検討会	都市建設課、企画政策課、社会教育課、総務課	第1回 平成28年8月10日 第2回 平成28年8月23日	企画政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標1		指標2		その他の数値指標1		その他の数値指標2	
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	[道路]太田原3号線	○	被災時の避難施設および公的な対応の中枢機能を担う中央コミュニティセンターの整備や消防詰所・防火水槽の整備によって、防災・減災に資するまちの基盤整備が進められた。それらに加えて、自主防災組織が全地区で結成されている他、消防団のOB会が結成される等、これらの都市基盤を活用する体制も強化されている状況にある。これらの要因によって目標値を上回る満足度が得られたと考えられる。	◎	雇用者・利用者増によって渋滞が問題となっていた町道(主要県道へのアクセス道路)の渋滞緩和整備や通学路の歩道整備に加えて、地域住民の視点に立ったきめ細かい整備(側溝整備)等を実施している。これらの整備は、利用実態に即した効率的な整備であることが、町民の安心安全に関する満足度(道路交通に関する満足度)の向上につながったと考えられる。	-	本施設は、町民・利用者や専門的な知識を有する委員からなる『建設検討委員会』を中心とした検討プロセスによって計画・設計されており、町民・利用者ニーズに合致した設計(充実したスポーツ・運動ができる本格的な設計・日常的な運動・コミュニティ活性化機能を含めた、さまざまな人が利用できる設計)になっている。このような検討・プロセスや設計によって、施設への期待度も含めて非常に高い満足度が得られた。	◎	本計画では、「災害に強い地域づくり」、「安心安全で快適な居住空間づくり」、「健康で元気な地域づくり」をテーマとした様々な事業を実施してきており、各テーマの住民満足度の向上が図られている。これらのテーマは、町民の居住に関するニーズと合致していることが、定住意識の向上にもつながったと考えられる。
	[道路]向高須志田線(森永工区)	○		◎		-		◎	
	[道路]大王線	○		◎		-		◎	
	[道路]向高須志田線(向高工区)	○		◎		-		◎	
	[道路]太田原原口線	○		◎		-		◎	
	[道路]宮本町線	○		◎		-		◎	
	[道路]向高須志田線(西ノ前工区)	○		◎		-		◎	
	[道路]田尻平田線	○		◎		-		◎	
	[道路]町道側溝整備等25線	○		◎		-		◎	
	[地域生活基盤施設]中央コミュニティセンター	◎		○		◎		◎	
	[地域生活基盤施設]八幡河川公園	-		○		○		◎	
	[地域生活基盤施設]市街地広場2箇所	◎		○		◎		◎	
	[地域生活基盤施設]中央コミュニティセンター広場	◎		○		◎		◎	
	[高質空間形成施設]県道宮崎須木線 照明施設	○		◎		-		◎	
[高次都市施設]中央コミュニティセンター	◎	○	◎	◎					
提案事業	中央コミュニティセンター	◎	○	◎	◎				
	消防詰所	◎	○	-	◎				
	防火水槽 市街地4基	◎	○	-	◎				
関連事業	交通安全・防災に対する意識調査	-	-	-	-				
	嵐田線 町道側溝整備等3線	○	◎	-	◎				

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	消防詰所をはじめとした公共施設の効率的な維持管理や住民の防災意識の維持・向上等によって、防災・減災まちづくりの更なる強化を図る。	町民・行政協働の維持管理を図るとともに、対象道路を活かした住民主体の防災・減災まちづくりを推進する。また、未だ危険性が高い町道の整備・改善に努める。	今後も施設整備にあたって町民や利用者からの意見を反映するプロセスを設ける等、利用者ニーズの把握・反映に努める。	今後も、定期的な住民ニーズの把握とニーズに合致した取り組みを進め、定住意欲の向上に努める。
今後の活用	消防詰所をはじめとした公共施設の効率的な維持管理や住民の防災意識の維持・向上等によって、防災・減災まちづくりの更なる強化を図る。	町民・行政協働の維持管理を図るとともに、対象道路を活かした住民主体の防災・減災まちづくりを推進する。また、未だ危険性が高い町道の整備・改善に努める。	今後も施設整備にあたって町民や利用者からの意見を反映するプロセスを設ける等、利用者ニーズの把握・反映に努める。	今後も、定期的な住民ニーズの把握とニーズに合致した取り組みを進め、定住意欲の向上に努める。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標3											
指標名		健康増進施設の利用者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	[道路]太田原3号線	-	『建設検討委員会(町民・利用者や専門的な知識を有する委員で構成)』を中心とした検討プロセスや、町民・利用者ニーズに沿った設計によって、町民の中央コミュニティセンターに対する満足度・期待度は非常に高い。しかし、当初想定した以上に広範囲での地盤改良が必要になったことや、天候不良による工事の遅れによって今年度中の利用開始が困難であることから、目標値(利用者数)が計測できなかった。	Ⅲ									
	[道路]向高須志田線(森永工区)	-											
	[道路]大王線	-											
	[道路]向高須志田線(向高工区)	-											
	[道路]太田原原口線	-											
	[道路]宮本町線	-											
	[道路]向高須志田線(西ノ前工区)	-											
	[道路]田尻平田線	-											
	[道路]町道側溝整備等25線	-											
	[地域生活基盤施設]中央コミュニティセンター	××											
	[地域生活基盤施設]八幡河川公園	-											
	[地域生活基盤施設]市街地広場2箇所	-											
	[地域生活基盤施設]中央コミュニティセンター広場	××											
[高質空間形成施設]県道宮崎須木線 照明施設	-												
[高次都市施設]中央コミュニティセンター	××												
提案事業	中央コミュニティセンター	××											
	消防詰所	-											
	防火水槽 市街地4基	-											
	交通安全・防災に対する意識調査	-											
関連事業	嵐田線	-											
	町道側溝整備等3線	-											

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	被災時の公的対応の中核機能を担う施設として、より効果的な活用策を検討・準備する。また一方で、スポーツ大会の誘致や町民アンケートによる同施設に関する町民意見・ニーズを踏まえた取り組みを実施し、活発な利用促進に努める。			
------------------	---	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内横断組織による検討会	都市建設課、企画政策課、社会教育課、総務課	第1回 平成28年9月21日	企画政策課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
雇用者の増から交通渋滞の緩和や交通安全対策をはじめ、主要県道にアクセスする町道の改良が必要となっている。	雇用者・利用者増によって渋滞が問題となっていた町道(主要県道へのアクセス道路)の渋滞緩和整備が図られた。	本事業によって、道路の渋滞解消や通学路の安全性は高まり、整備予定の国富SIC(仮称)を含めた道路のネットワークも構築された。しかし、未だ歩行者にとって危険性が高い路線もあることから、今後は危険性の高い道路の安全性を確保するとともに、町の産業活性化に資する道路ネットワークを更に活用していくためにも、国富SIC(仮称)を活かしたまちづくりの展開の重要性が高いといえる。	
市街地が馬の瀬に密集しており、地震等の大災害時にける避難所整備が必要となっている。	被災時の避難施設および公的な対応の中核機能を担う中央コミュニティセンターの整備や消防詰所・防火水槽の整備によって、防災・減災に資するまちの基盤整備が進められた。これらによって、町民の防災に関する満足度が向上した。	-	
子どもや高齢者などが利用する生活道路の歩行空間確保が急務である。	通学路の歩道整備に加えて、地域住民の視点に立ったきめ細かい整備(側溝整備)等を実施し、町民の安心安全に関する満足度の向上が図られた。	-	
快適で住みよく、活気のあるまちづくりのために、生活環境整備が必要となっている。	健康増進・地域コミュニティの活性化・被災時の拠点施設として、町民の期待度・満足度が非常に高い中央コミュニティセンターの整備を推進できた。	『元気なまちづくり』の観点では、本事業で実施したまちなかの広場(イベントスペース)等も活かしながら、町の産業・観光業を更に活性化させていくことが重要である。  中央コミュニティセンター建設により、体力づくりや心の健康(コミュニティ活性化による効果)の観点から、町民の健康確保が図られることが期待できる。一方、更にきめ細かい町民の健康増進(住みよい元気なまちづくり)の視点では、保健・医療・福祉についても、より利用者の利便性を高める取り組みを進める必要性があり、課題として残っているといえる。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	町道(主要県道へのアクセス道路)の効率的な維持管理	本事業で整備した町道(主要県道へのアクセス道路)について効率的な維持管理・利活用を図る。	・町内の道路について、町民・行政協働の維持管理 ・整備道路等を活かした住民主体の防災・減災まちづくりの推進
	災害に強い安全な地域づくりの更なる強化	整備した防災・減災に資する「まちの基盤」の効率的な維持管理を図るとともに、防災に関する町民の自主的な活動を支援する。	・消防所をはじめとした公共施設の効率的な維持管理 ・町民の防災意識の維持・向上 ・自主防災組織、消防団OB会の活動支援
	町内道路の効率的な維持管理	町内道路について効率的な維持管理・利活用を図るとともに、未だ危険性が高い町道の整備・改善に努める。	・町内の道路について、町民・行政協働の維持管理 ・危険性が高い町道の整備 ・整備道路等を活かした住民主体の防災・減災まちづくりの推進
	健康増進・コミュニティ拠点の積極的・効果的な利活用	町民の満足度・期待度が非常に高い中央コミュニティセンターについて、積極的・効果的な利活用を図る。	・スポーツ大会の誘致や開催、町民意見・ニーズを踏まえた取り組みの実施 ・被災時の拠点施設として、より効果的な活用策の検討・準備

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	国富SIC(仮称)を活かしたまちづくりの推進	本事業等で整備・構築した道路ネットワークと、整備予定の国富SIC(仮称)を活かしたまちづくりの展開を図る。	・国富SIC(仮称)を活かした産業活性化策(産業団地の整備、観光・物産インフォメーションの整備など)の検討・実施
	町の産業・観光業の更なる活性化	町の産業・観光業の更なる活性化に資する新たな拠点づくりや取り組みを、若い世代から高齢者までのさまざまな世代と一緒に推進する。	・中心市街地(国富SIC(仮称)方面からの来訪者が増えると思われる「まちなか」の玄関口)において、町の産業・観光業の振興や中心市街地の活性化に資する拠点づくりの検討・実施 ・史跡めぐりを始めとした観光サポート事業(観光ボランティアガイド、レンタサイクルの申込受付、観光パンフレットの提供、観光散策コースの紹介、古墳や史跡を巡るウォーキング大会など)の実施
	保健・医療・福祉事業の更なる推進・強化	保健・医療・福祉分野における利用者の利便性を高める取り組みにより、更にきめ細かい視点での町民の健康増進を図る。	・保健・医療・福祉分野の取り組みについて、利用者の利便性を高めるための取り組み(福祉センター及び保健センターの集約・ワンストップ化など)の検討・実施

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・水道、道路・橋梁などインフラに対する計画的な維持管理 ・景観に配慮したまちづくり
--



添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	防災に関する満足度	-	2.8	H24	3.0	H28	確定 見込み ●	3.6	○	あり なし	→	平成29年10月	地区住民に対する「防災に関するアンケート調査」より満足度を把握し、確定値とする。	-
指標2	安心安全に関する満足度	-	2.7	H24	3.0	H28	確定 見込み ●	3.2	○	あり なし	→	平成29年10月	地区住民に対する「安心安全に関するアンケート調査」より満足度を把握し、確定値とする。	-
指標3	健康増進施設の利用者数	人/年	35,000	H24	37,000	H28	確定 見込み ●	0	×	あり ● なし	→	平成29年12月 平成30年 8月	中央コミュニティセンターの利用者数を集計し、完成後の利用状況を把握する。	-
指標4							確定 見込み			あり なし	→			
指標5							確定 見込み			あり なし	→			
その他の数値指標1	健康増進・コミュニティ拠点としての満足度	-	0	H24	/	/	確定 ● 見込み	1.3	/	/	→	-	-	-
その他の数値指標2	本地区への定住意識の向上	-	0	H24	/	/	確定 見込み ●	0.7	/	/	→	平成29年10月	地区住民に対するアンケート調査より、定住意識を把握し、確定値とする。	-
その他の数値指標3					/	/	確定 見込み		/	/	→			



## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	-	・次期計画を策定する場合は、事業の実施時期と指標の計測時期を参考にして目標値を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	・指標3「健康増進施設の利用者数」について、中央コミュニティセンターの工事の遅れによって数値の計測ができなかった(指標の設定に際して、施設整備時期に配慮が必要であった)。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・1期計画から継続している指標1「防災に関する満足度」と指標2「安心安全に関する満足度」によって、町民の満足度の推移を確認することができ、事業効果を把握することができた。	・今後とも町民意見・ニーズの把握と、それらを踏まえた取り組みを進め、町民の定住意識の向上に努める。
	うまくいかなかった点	-	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・中央コミュニティセンターについて、計画段階から町民・利用者が関わりながら事業を進めたこと等により、町民の満足度・期待度が高い施設整備を進めることができた。	・今回のような公共施設を計画する際は、今回のように町民や利用者等からの意見を反映するプロセスを設ける。
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・庁内の横断的な組織によって、様々な視点から今後のまちづくり方策等を検討することができた。	・今後も庁内の事業において、様々な視点からの検討が必要になった場合は、庁内の横断的な組織による検討が有効である。
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	

### 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定

1期計画・2期計画を通じて、町民が安心して暮らせるまちづくり・住民参加型のまちづくりの基盤が整ってきている。今後は、地方創生の主旨に沿って、交流人口増加のための取り組み等を展開していくために、継続して3期計画(都市再生整備計画事業)を活用して、本事業の大目標である『住みよい元気なまちづくり』を目指す。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	国富町ホームページへの掲載	平成28年11月21日～平成28年12月5日	平成28年11月21日～平成28年12月5日	担当部署への電話及びメール	企画政策課
広報掲載・回覧・個別配布	回覧に、町のホームページで原案を公表する旨を掲載	平成28年11月17日発行			
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	役場(企画政策課)での窓口閲覧	平成28年11月21日～平成28年12月5日	平成28年11月21日～平成28年12月5日		

住民の意見	<p>窓口閲覧者(1名)から、事業に対して高評価の意見があった。 その他の住民からの意見なし。</p>				
-------	---	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	町商工会会長 菅 修蔵	平成28年12月12日	企画政策課	国富町まちづくり交付金 評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	町区長会会長、町議会文教産業常任委員会委員長:計2名				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1『防災に関する満足度』とその他の数値指標1『健康増進・コミュニティ拠点としての満足度』について、アンケート回答者が具体的な内容(指標1:防災については具体的な事業、その他の数値指標1:健康増進・コミュニティ拠点については建設検討委員会を中心とした検討プロセス)を理解できるようになっているかを確認する意見があった。→ アンケート説明文書の内容をお示しし、委員の理解を得た。
	実施過程の評価	・住民参加プロセスとして「中央コミュニティセンターの建設において、町民・利用者や専門的な知識を有する委員からなる建設検討委員会を中心に検討を進めた」こと等の取り組みが確認された。 ・また、持続的なまちづくり体制の構築状況として挙げている「市街地広場を活用した賑わいづくり」の取り組みが実施されていることについて、委員より地域住民・町民が非常に喜んでいるという意見が得られた。
	効果発現要因の整理	・今後の活用で挙げている通り「今後も施設整備にあたって町民や利用者からの意見を反映するプロセスを設ける」必要があるとの意見がある等、効果発現要因が適正に整理されていることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案公表の内容や手段が適正であることが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策で挙げている方策の通り、「国富SIC(仮称)を活かした観光・物産インフォメーションの整備」が必要であるとの意見があった。 ・史跡めぐりを始めとした観光サポート事業として、「古墳や史跡を廻るウォーキング大会など仕掛け」が重要であるとの意見があった。 ・安心安全に関する満足度を更に高めていくための事業として「未だ危険性が高い町道の整備」が必要であるとの意見があった。 ・今後のまちづくりを進めていく中では、若い世代もまちづくりに興味を持つ・まちづくりに積極的に関わるようにする必要があるとの意見があった。
	フォローアップ	・フォローアップ計画が適正であることが確認された。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

# 都市再生整備計画(第4回変更)

くにとみちく  
国富地区

みやざきけん くにとみちょう  
宮崎県 国富町

平成28年1月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。



## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1(防犯防災対策による災害に強い安全な地域づくり)</p> <p>①避難所(オープンスペース含む)を確保し、災害時における地域住民の安全対策を図る。</p> <p>②防災の中核機能を担う拠点となる公共施設の整備を行い、大規模な自然災害に対する危機管理体制を構築する。</p> <p>③地震による火災を想定し、市街地に消防詰所・防火水槽を整備する。</p>	<p>方針に合致する主要な事業</p> <p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地公園整備事業/地域生活基盤(広場)</li> <li>・中央コミュニティセンター整備事業(避難所兼用)/地域生活基盤</li> </ul> <p>提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防詰所/地域生活基盤</li> <li>・防火水槽整備事業/地域創造支援</li> <li>・防災に対する意識調査/事業活用調査</li> </ul>
<p>・整備方針2(交通の利便性や安全性、歩行環境の向上による安全で住みよい地域づくり)</p> <p>①企業の設備投資に伴い幹線道路を利用し、物流が活発化しているほか、工場通勤車両が増加してくるため、交通混雑の解消や交通安全対策として、幹線道路を迂回する道路の改良を行う。</p> <p>②通勤時間や製品資材の搬出入の利便性を図り、企業の生産能力の経済性を高めるため、産業道路としての交通アクセスを整備する。</p> <p>③車歩道が一体となっている通学路に歩道を整備することにより、子どもをはじめとした歩行者の安全確保を図る。</p> <p>④蓋掛けのない町道の側溝改修、道路修繕により、歩行空間を広げ、段差を解消することで安全に歩行できるよう整備する。</p> <p>⑤県道宮崎須木線は、宮王丸～太田原間が暗いため、照明施設の設置を行い、防犯防止及び交通安全確保を図る。</p>	<p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田原3号線道路改良事業</li> <li>・向高須志田線(森永工区)道路改良事業</li> <li>・大王線道路改良事業</li> <li>・向高須志田線(向高工区)道路改良事業</li> <li>・太田原原口線道路改良事業</li> <li>・宮本町線道路改良・舗装補修事業</li> <li>・向高須志田線(西ノ前工区)道路改良事業</li> <li>・田尻平田線</li> <li>・町道・生活道路側溝改修事業</li> <li>・宮王丸十日町東線ほか25路線</li> <li>・県道宮崎須木線照明灯設置事/高質空間形成施設</li> </ul> <p>提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全に対する意識調査/事業活用調査</li> </ul>
<p>・整備方針3(生活環境整備による住みよい元気なまちづくり)</p> <p>①地域交流を促進し、気軽に運動できる施設整備により、第5次総合計画の柱でもある元気なまちづくりを推進する。</p> <p>②河川公園を緑化することにより、住みよい美しい空間を提供する。</p> <p>③市街地にイベント開催が可能なスペースとしての公園を整備し、回遊性のある商業地のにぎわい空間の創出を支援する。</p>	<p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡河川公園/緑地</li> <li>・市街地広場整備/地域生活基盤(広場)</li> <li>・中央コミュニティセンター整備事業/地域創造支援</li> <li>・中央コミュニティセンター広場整備/地域生活基盤(広場)</li> </ul> <p>提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央コミュニティセンター整備事業/高次都市施設</li> </ul>
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防犯・防災組織など、地域住民自らの取り組み活動を支援し、自ら守る安心・安全な地域社会づくりの意識を高め、自主活動の定着化を推進していく。</li> <li>・子どもの登下校時の交通安全や防犯対策を地域住民で支えあう活動として継続的に発展させていく。</li> </ul> <p>○安心安全なまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画区域内の小中学校(4校)において耐震対策を計画しており、平成21年度までには耐震事業を完了。</li> <li>・通学路を対象に防犯灯を設置(安全なまちづくり防犯灯設置事業 H17～H19の3年計画)</li> <li>・児童生徒用防犯ブザーの携帯励行</li> <li>・子ども安全対策パトロール事業</li> <li>・まちづくり交付金事業と並行して、防災計画の見直しを行う。</li> </ul>	

